

リーディングプロジェクトとは（役割と位置付け）

- 基本構想で掲げる「2030年の北杜市のありたい姿(将来像)」の実現に向け、総合計画の実効性を高めるため、各部門を横断して先導的な役割を担うべくプロジェクトとして設定するもので、特に優先的かつ重点的に取り組んでいきます。
- また、第3次総合計画前期基本計画においては、「北杜市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を一本化し、地方創生と人口減対策に資する施策を前期基本計画におけるリーディングプロジェクトとして位置付けます。

リーディングプロジェクト検討シートの見方

リーディングプロジェクト名

リーディングプロジェクトの名称です。

背景・基本的方向性

政策課題やプロジェクトの基本的方向性として、「現状」「課題」「目的」「手段」等を記載しています。

基本目標

プロジェクトの基本目標を記載しています。

数値目標(KGI)

基本目標とその達成度を測るための指標(KGI)を設定します。

※KGI…最終目標を定量的に評価するための指標

※記入してある数値目標(KGI)は、参考指標です。今後、リーディングプロジェクトの内容を精査していく中で検討、決定します。

リーディングプロジェクト

1

子育て・教育で選ばれる都市をつくる

攻 未来をつくる戦略

背景

- 本市では、これまでも結婚-妊娠-出産-保育-教育の各段階で、子育て世代が安心して暮らせる環境整備を進めてきました。
- また、目指す子ども像として「夢を持ち、未来を切り拓く、心身ともにたくましい北杜の子ども」を掲げ、学校教育の充実に努めてきました。
- しかしながら、本格的な人口減少や少子・超高齢化が進展しており、持続可能なまちとなるような人口構造に変えていくためには、「子育て・教育で選ばれる地域」になる必要があります。
- 本市の宝である子どもたちの笑顔こそ、本市が発展する原動力であり、「10年間で子どもの数を2倍」という強いメッセージと大きなチャレンジが必要です。
- 子育て・教育を未来への投資と捉えて、子育て世代、特に若年女性のニーズに応える施策を展開していきます。
- 加えて、取組の成果を発信することで、『子育てするなら北杜』というブランドを構築し、子育てと教育環境の良さで、子育て世代から「選ばれる地域」を目指します。

基本目標

- ☆ 若年女性の子育て・教育の満足度が高まっている
- ☆ 市内外に「北杜の子育て・教育」の良さが知られている
- ☆ 地域全体で子どもを支え、育てる機運が高まっている
- ☆ 子どもの命と心身の健康を守る体制が整っている
- ☆ 若者・子育て世帯のニーズに合った住宅が供給されている

No	数値目標(KGI)
1	年少人口の転入者数
2	合計特殊出生率
3	20~40歳の女性における子育て・教育施策分野の満足度
4	子育て世帯における親の負担感
5	北杜市の子育て・教育の注目度

基本プロジェクト

LP 1-1 子育てするなら北杜！選ばれる支援体制をつくる

《結婚支援》

- 若者の結婚支援体制の充実

《子育て家庭への支援》

- 子育てに関する学習機会や情報提供の充実、交流の場の確保
- 子育て家庭への経済的支援
- ひとり親、子育て困難家庭への自立支援や相談体制の充実
- 身近な所での支え合い、助け合いによる子育て支援体制の充実
- 子どもたちの放課後の居場所の確保

《子どもや親の健康確保》

- 妊娠・出産に伴う不安解消と安全な出産を支援
- 子ども・親の心身の健康保持・増進の相談・保健指導の充実

《子育て環境の整備・充実》

- 多様な保育ニーズに対応できる環境の整備(民間活力導入含む)
- 親子が安心して遊べる環境の整備
- 企業の女性活躍、子育て支援の促進
- 子育て中の女性への就労、スキル学習支援

LP 1-2 世界に通じる学校教育を磨き上げる

《グローバルな視点を持った未来を担う人材の育成》

- 25人学級、学力向上に向けた取組の推進
- 国際理解の促進
- ICT環境の積極活用でDX社会の新たな教育の推進
- 食文化の理解と食育の推進(学校給食での活用含む)
- 児童生徒の一人ひとりの個性に応じた支援体制の構築
- 男女の違いにより生じる様々な格差の是正に向けた教育の推進

《相談体制》

- いじめ対策・不登校支援のための体制整備

《教職員の資質向上》

- 学校における働き方改革の推進

戦略区分

『【攻】未来をつくる戦略』は、人口減少の緩和と地域産業の活性化を目指します。
『【守】未来に備える戦略』は、人口減少に適応した地域をつくることを目指します。

プロジェクト体系

リーディングプロジェクト(LP)を実現するために優先的かつ重点的に取り組む基本プロジェクトをLPごとに2つ設定しています。

取組内容

基本プロジェクトごとに優先的・重点的に取り組む内容(案)を記載しています。

※取組内容の具体的な事業(主要事業)との関連については、第2編 部門別計画の掲載場所を表示する予定です。

第3次北杜市総合計画前期基本計画 第1編 リーディングプロジェクト体系図

(第2次北杜市まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂版)



未来をつくる戦略 ……人口減少の緩和と地域産業の活性化を目指します。

未来に備える戦略 ……人口減少に適応した地域をつくることを目指します。

背景

- 本市では、これまでも結婚-妊娠-出産-保育-教育の各段階で、子育て世代が安心して暮らせる環境整備を進めてきました。
- また、目指す子ども像として「夢を持ち、未来を切り拓く、心身ともにたくましい北杜の子ども」を掲げ、学校教育の充実に努めてきました。
- しかしながら、本格的な人口減少や少子・超高齢化が進展しており、持続可能なまちとなるような人口構造に変えていくためには、「子育て・教育で選ばれる地域」になる必要があります。
- 本市の宝である子どもたちの笑顔こそ、本市が発展する原動力であり、「10年間で子どもの数を2倍」という強いメッセージと大きなチャレンジが必要です。
- 子育て・教育を未来への投資と捉えて、子育て世代、特に若年女性のニーズに応える施策を展開していきます。
- 加えて、取組の成果を発信することで、『子育てするなら北杜』というブランドを構築し、子育てと教育環境の良さで、子育て世代から「選ばれる地域」を目指します。

基本目標

- ☆ 若年女性の子育て・教育の満足度が高まっている
- ☆ 市内外に「北杜の子育て・教育」の良さが知られている
- ☆ 地域全体で子どもを支え、育てる機運が高まっている
- ☆ 子どもの命と心身の健康を守る体制が整っている
- ☆ 若者・子育て世帯のニーズに合った住宅が供給されている

No	数値目標(KGI)
1	年少人口の転入者数
2	合計特殊出生率
3	20~40歳の女性における子育て・教育施策分野の満足度
4	子育て世帯における親の負担感
5	北杜市の子育て・教育の注目度

基本プロジェクト

LP 1-1 子育てするなら北杜！選ばれる支援体制をつくる

- 《結婚支援》
 - 若者の結婚支援体制の充実
- 《子育て家庭への支援》
 - 子育てに関する学習機会や情報提供の充実、交流の場の確保
 - 子育て家庭への経済的支援
 - ひとり親、子育て困窮家庭への自立支援や相談体制の充実
 - 身近な所での支え合い、助け合いによる子育て支援体制の充実
 - 子どもたちの放課後の居場所の確保
- 《子どもや親の健康確保》
 - 妊娠・出産に伴う不安解消と安全な出産を支援
 - 子ども・親の心身の健康保持・増進の相談・保健指導の充実
- 《子育て環境の整備・充実》
 - 多様な保育ニーズに対応できる環境の整備(民間活力導入含む)
 - 親子が安心して遊べる環境の整備
 - 仕事と子育ての両立支援
 - 子育て中の女性への就労、スキル学習支援

LP 1-2 世界に通じる学校教育を磨き上げる

- 《グローバルな視点を持った未来を担う人材の育成》
 - 25人学級、学力向上に向けた取組の推進
 - 国際理解の促進
 - ICT環境の積極活用でDX社会の新たな教育の推進
 - 食文化の理解と食育の推進(学校給食での活用含む)
 - 児童生徒の一人ひとりの個性に応じた支援体制の構築
 - 男女の違いにより生じる様々な格差の是正に向けた教育の推進
- 《相談体制》
 - いじめ対策・不登校支援のための体制整備
- 《教職員の資質向上》
 - 学校における働き方改革の推進

背景

- 本市は、2つのユネスコパークがある日本唯一の自治体であり、山岳景観、清流、生態系などに恵まれています。
- 大都市圏からのアクセスの好立地が、今後、リニア中央新幹線と中部横断自動車道の開通によって更に強みが増します。
- こうした強みを活かして、アフターコロナのニーズに対応した『ツーリズム(観光事業)』を展開していくことが地域産業の成長の相乗効果につながります。
- また、本市に集積している『食と農に関する産業』を強化することで、外貨を稼ぎ出しつつ、域内への来訪や移住にもつなげることが重要です。

基本目標

- ☆ コロナ後の観光需要に対応し、コロナ前の水準に回復している
- ☆ 体験・滞在コンテンツの開発により来訪者の消費額が増加している
- ☆ 市内各地で農業の担い手が確保され、農地が活用されている

No	数値目標(KGI)
1	観光入込客数(国内客・外国人)
2	観光消費額・満足度・リピート率
3	農業産出額・経営耕地面積
4	新規就農者数・農業法人設立数
5	内閣府 地方創生SDGs 官民連携優良事例などでの選定

基本プロジェクト

LP
2-1

世界水準の観光都市をつくる

《地域に眠る観光資源の磨き上げ》

- 古民家再生、活用の支援
- 観光ルネサンス(清里、増富の再生)、高付加価値化の推進

《地域の特性を活かしたツーリズムの推進》

- 芸術・文化・登山・アウトドア・スポーツ等を活用した誘客・滞在時間延長
- 農観ツーリズムの推進
- 魅力的なアクティビティ(体験プラン等)、滞在コンテンツの開発支援
- 2つのユネスコパークの保全・活用施策の推進

《受入体制の基盤づくり》

- 感染拡大防止と観光需要の回復(本格的なインバウンド回復に備えた取組)
- リニア中央新幹線の開業、中部横断自動車道の開通に向けた取組の推進
- 情報発信の強化と市内での観光情報等の取得環境整備の促進
- 北杜インバウンド・アンバサダー(大使)の設置と活用
- プロモーション人材とおもてなし人材の育成

LP
2-2

食と農で輝く北杜をつくる

《食と農の価値創造》

- 生産基盤の整備
- 地産地消、食育の推進
- 北杜の郷土食による地域の活性化
- 市産農畜産物の生産拡大とブランド化の強化、六次産業化の推進
- ワイン・日本酒等の関連産業の振興
- 環境に配慮した循環型農業の推進

《担い手づくり》

- 農林業の担い手確保・育成支援
- 農業生産法人の設立や参入支援、雇用就農支援
- 集落営農組織等の組織化・育成支援
- 新規就農時の土地貸借・売買への支援

背景

- 本市は、自然環境や交通アクセスの良さから、都市部や他地域からの移住を多く受け入れている地域ですが、移住者は中高年が多く、20歳代は少ないという弱みがあります。
- 少子・超高齢化が進展する本市においては、若い世代に移住・定住先として選ばれる地域をつくっていくことが重要です。
- 若い世代から選ばれる地域となるためには、魅力ある就業機会の拡大が重要であり、地域経済の活性化が必要です。
- 世界に通用する産業の振興とグリーン産業、次世代産業等の成長産業の誘致、進出支援、先駆的企業・大学等との連携等を進めていく必要があります。
- また、本市の魅力を知り、何らかの形で関係を保ち、機会があれば応援したいという北杜ファンが市内外に多くいます。こうしたファンとともに、地域の未来をつくるためのコミュニケーションを活発化させ、協働・共創できる関係を構築し、その力を引き出していくことが重要です。
- 加えて、若い世代が関心の高い施設やイベント誘致などにより、関係人口の増加を図るとともに、受入環境の整備や移住者と連携した情報発信等を行います。

基本目標

- ☆ 20歳代の社会動態が好転している
- ☆ 関係人口・北杜ファン(個人・企業)が可視化され、必要に応じてコミュニケーションをとれる状況ができている
- ☆ リモートワーカーやサテライトオフィスを探す企業に選ばれている
- ☆ グリーン・次世代産業との連携により新分野への投資・挑戦が実施されている

No	数値目標(KGI)
1	20歳代の社会動態(転出入の差)
2	ふるさと納税額
3	サテライトオフィス進出数
4	リモートワーカー移住数
5	脱炭素・グリーン成長等のモデル都市構築の外部資金確保

基本プロジェクト

LP
3-1

若い世代に選ばれる地域をつくる

《移住・定住の促進》

- 若い世代を中心としたUIターンの促進
- 若い世代、子育て世代のニーズに対応した住環境の提供・支援
- 空き家、住宅地など住まい情報の発信強化

《関係人口・受入環境の整備》

- 若い世代が関心の高い施設やイベントの誘致、関係人口の拡大
- 若者による“まちづくり”の提案と実践の場の提供
- コワーキングスペース※等、リモートワーカーの受入環境の強化
- IoT、AI、ロボット等の実証実験の誘致、フィールドを提供
- 産学官連携による産業開発のプラットフォーム構築

《魅力ある市内就業》

- グリーン産業、SDGs実践企業の誘致・定着支援、経営支援
- 地方拠点を探る企業との意見交換の場の設置
- 市内企業(創業)支援の充実・強化

LP
3-2

北杜ファン(応援者)をつくる

《北杜ファンをつくる》

- ふるさと納税返礼品の充実による北杜ファンの獲得
- 企業版ふるさと納税を活用した協働プロジェクトの推進
- 観光、環境、農業、芸術等、地域資源を活用したファンづくり
- 本市出身者、在住者のコミュニティの活性化支援
- 市外からの協力活動の活性化

《北杜の魅力を知ってもらう》

- 北杜ファンのネットワーク化
- 戦略的シティプロモーションの推進、トップセールスの実施

《北杜ファンとの協働・共創》

- 先輩移住者コミュニティによる情報発信と相談対応
- 移住者等の市内定着に向けた支援
- 多様な主体の交流・連携による地域づくりの推進
- 経営者・学識者・芸術家・アスリート等、知識や特技を持った移住者・二拠点居住者との連携

背景

- 本市では、毎年数百人の方が亡くなる少子・超高齢化(多死社会化)が進展しています。事業経営者や農地・山林所有者の高齢化も進み、後継者の確保や資産の継続活用が課題(空白(空洞))となっています。
- 市内に生じる“空白(空洞)”を埋めるべく、遊休資産の発生を未然に防ぐとともに、遊休化した資産の次世代への継承を促します。
- 地域コミュニティにおいては、地域活動の担い手が不足し、伝統行事や地域の保全活動などの継続が危ぶまれる事態となっています。地域コミュニティのあり方を再検討し、時代に対応した運営方法の構築を支援します。
- 人口減少や高齢化が著しい中山間地域においては、一体的な日常生活圏を構成している「集落生活圏(小さな拠点)」を維持し、魅力的な集落圏を形成していくことが重要です。
- 歳入の確保や歳出の抑制などによる財政健全化を推進するとともに、限られた人材、財源を有効に活用するとともに、効率的で効果的な行財政運営を推進します。
- 行政や地域において、DX(デジタルトランスフォーメーション)※を進めることで、市や市民が直面する課題に対応し、市民サービスの高度化と地域経済の活性化を目指します。

基本目標

- ☆ 空き家・農地・山林バンクのマッチングが増加している
- ☆ 事業継承が増加している
- ☆ 地域コミュニティへの加入率が維持・向上している
- ☆ デジタル技術を活用して、生活に必要な機能が補完されている

No	数値目標(KGI)
1	空き家／農地／山林 マッチング件数
2	事業継承／M&A件数
3	自治会加入率
4	DXによる業務効率化

参考

基本プロジェクト

LP 4-1 将来にわたって暮らし続けることができるまち

《“空白”を活用する》

- 市の未利用施設・スペースの有効活用の促進
- 空き家対策の推進
- 農地・山林バンク制度の立ち上げと活用
- 事業継承、M&A※等のマッチングの支援

《地域コミュニティの人材確保》

- 多様な人材の活躍推進
- ボランティアやリーダー人材などの育成や活動支援、相談体制の強化
- テーマ型コミュニティと地縁型コミュニティの連携の促進
- 多世代交流機会の創出

《小さな拠点の形成》

- 集落生活圏を維持するための生活サービス機能の集約・確保
- 交通ネットワーク機能の強化
- 多様な組織との連携促進

《行財政改革プラン2021(仮称)の推進》

- 財政健全化の推進
- 効果的・効率的な行財政運営の推進

LP 4-2 行政DXと地域DXの推進

《行政DXの推進》

- 行政手続きのデジタル化推進
- 行政組織のDX推進体制の構築
- AI・RPAの利用促進

《地域DXの推進》

- デジタルデバインド(情報格差)対策※
- 医療、福祉、教育、観光など幅広い分野で未来技術の実装を支援
- デジタル人材(専門人材・知識や技術をもった市民)の確保・育成
- ロボット・AI等による作業支援の促進、導入支援

※M&A…企業の合併買収

※DX…デジタルトランスフォーメーション。デジタル技術がすべての人々の生活をより良い方向に変化させるという概念。ビジネスの文脈に置き換えると「デジタル技術を駆使して、経営や業務プロセスそのものを根本的に改善していく取組」

※デジタルデバインド対策…ICTツールの利用が不慣れな人に対する利用支援

背景

- 人生100年時代において、すべての人が年齢に関係なく学ぶことのできる環境整備と、学んだことを生かして産業や地域に貢献できる機会をつくるのが重要になっています。
- 就労・趣味・スポーツ・地域活動・支え合い活動など、様々な場面で出番と居場所があり、生きがいをもって生活する市民を増加させていきます。
- 性別・国籍・人種・宗教・バックグラウンド・年齢・障がい・LGBTQ(性的マイノリティ)といった違いを「その人がもつ個性」と捉え、それぞれの個性を尊重し合い、強みとなるよう活かすことが必要です。
- 異なる個性や文化をもった市民を受け入れ、その力を北杜市の地域や産業において発揮してもらえる仕組みづくりを推進します。

基本目標

- ☆ 年齢を重ねても居場所と出番がある高齢者が増えている
- ☆ 市内に趣味・学びの機会が豊富にあり、身に着けたことを社会に還元できる
- ☆ 女性・外国人・マイノリティに優しい地域社会が実現している
- ☆ 市政に関する情報提供と住民参加の機会が確保されている

No	数値目標(KGI)
1	生きがいを感じながら生活している高齢者の比率
2	生涯学習に参加する市民の比率
3	住民主体の通いの場の開催数
4	障がい者の地域移行・一般就労の人数
5	市政運営に対する市民の満足度

基本プロジェクト

LP
5-1

一人ひとりが輝く社会、自分らしく輝ける社会

《健康寿命を延伸する》

- 予防的な視点を持った健康づくりの取組を支援
- 健康診査や保健指導の推進
- 認知症・フレイル※予防の推進
- 高齢者の自立支援、介護予防・重度化防止の推進
- 食育、食生活の改善指導の推進
- 相談支援体制の連携強化

《地域活動・多様な学習機会・スポーツ活動への支援》

- 地域コミュニティへの支援
- 生涯学習プログラム(リカレント教育(学び直し)含む)の拡充
- 多世代の市民が学べる場づくり
- スポーツ・レクリエーションの推進

《多様な人材の育成と活用》

- 高齢者の就労促進
- 外国人との共生推進
- 趣味、ボランティア等への参加の促進
- 男女共同参画の促進
- 多世代・異文化交流の推進

LP
5-2

支え合いのまちをつくる

《地域包括ケアシステムの推進》

- 福祉教育、福祉意識の高揚・啓発の推進
- 市民・企業・行政の連携による地域福祉の推進
- 福祉人材の確保・育成
- 障がい者の自立支援と社会参加の促進
- 民生・児童委員及び社会福祉協議会との連携強化
- 8050問題※など複合的な課題への対応強化

※フレイル・・・虚弱（健康な状態と要介護状態の中間、機能低下が見られる状態）

※8050問題・・・80代の親が50代のひきこもりの子を抱えている家庭、そこから派生する問題を指す

背景

- 近年、気候変動の影響による豪雨や酷暑などが頻発しています。また、我が国は火山列島であり、大規模な地震のリスクが常にあります。
- こうした中で、私たちにできることは、いつ起きてもおかしくない天災を想定し、その際に判断に迷わないように準備をしておくことで命を守ることができます。
- また、収束の見えない新型コロナウィルスをはじめ、感染症に対して予防・対処できる知識の普及や体制の構築が問われています。
- 地域の生活を支える仕組みは、効率性を重視した「一極集中型」が主流でしたが、この型では、災害で拠点が破壊された場合に全体がストップするリスクがあります。エネルギーの利用や非常時の取組みにおいても自律・分散型に移行させていくことが求められます。
- 地域社会、組織、個人などのレベルで、災害や感染症などの非常事態が生じた場合にも対応できる仕組みや体制を、官民が連携して構築することで、「安心感」を担保します。
- 地域医療体制の充実を図るとともに、医療、保健、福祉の連携を促進し、生涯にわたり安全・安心に暮らせる地域を目指します。

基本目標

- ☆ 地域の防災・減災の取組みが継続され、万々に備えている
- ☆ 災害等の非常時に使うことのできる、備蓄や電源が確保されている
- ☆ 医療・介護・社会福祉等の専門サービスと地域との連携により、安心して暮らすことができる

No	数値目標(KGI)
1	自主防災組織の組織数・活動
2	消防団の人材確保
3	市民の災害時の対応の理解の状況
4	救急医療体制の確保
5	人手不足感を感じる事業所の比率

基本プロジェクト

LP
6-1

市民の命を守る

《消防・防災》

- 消防団の充実強化への対応
- 地域防災・減災のための自主防災組織の加入促進及び活動支援
- 事前防災(ソフト面:ハザードマップ、避難体制、訓練等)の推進
- 救助・救急・医療活動等の体制構築
- 防災・減災に関する知識啓発、意識改革
- エッセンシャルワーカー(緊急事態下においても業務をやめることのできない仕事=医療・福祉、小売・卸、通信、公共交通機関等)の確保支援

《地域医療》

- 地域医療の機能維持・充実
- 多職種連携、病診連携による円滑な入退院支援
- 在宅医療・介護連携の推進
- 感染症予防対策、感染症罹患後の対応の充実
- 2つの市立病院の連携強化

LP
6-2

地域強靱化を進める

《強靱化》

- 市民等への情報伝達の強化
- 事前防災(ハード面:治山・治水対策、河川改修、建築物の耐震化等)の推進
- 道路ネットワークの機能強化対策
- 予防保全型インフラメンテナンスの実施(老朽化対策)
- 経済活動(サプライチェーン※含む)の維持
- 二次災害予防対策
- 行政と民間の地域レベル連携の推進
- 地域強靱化施策を円滑に進めるためのインフラDXの推進